

概 要

1 気象概況

- 気象庁資料からみた、平成21年の月別の気象概況は、以下のとおりである -

1月 北日本で顕著な高温となり、北日本日本海側では顕著な少雪、北・東日本太平洋側では顕著な多雨となった。

寒気の影響が小さかった北・東日本では高温となった。特に北日本では、日本海や三陸沖を通過した低気圧の影響で暖かい空気が流入したことも加わって顕著な高温となり、北海道の釧路では月平均気温の高い記録を更新した。北・東日本日本海側の降雪量は少なく、特に北日本日本海側では顕著に少なかった。低気圧の影響を受けやすく、月末には大雨となったところもあった北・東日本太平洋側は顕著な多雨となり、栃木県の宇都宮など4地点で月降水量の多い記録を更新した。一方、寒気がしばしば流入した西日本や沖縄・奄美では寒暖の変動が大きかった。西日本日本海側の降雪量は平年並だった。月末に大雨となった奄美地方は顕著な多雨となったが、前線や低気圧の影響が小さかった沖縄地方は顕著な少雨となった。

2月 全国的な高温で、沖縄・奄美では顕著な少雨・多照、東・西日本日本海側では顕著な少雪となった。

短い周期で低気圧が日本付近を通過し、北日本から西日本では天気は数日の周期で変わった。中旬後半に一時冬型の気圧配置となり、北日本中心に寒気の影響を受け、北日本日本海側で曇りや雪の日が続いた。このほかは、寒気の影響は小さく、東・西日本日本海側では顕著な少雪となり、全国的に高温で経過した。特に、13日から14日にかけては、低気圧が日本海を発達しながら通過して暖気が入ったため、東日本では2月としての日最高気温の高い値を更新したところがあった。また、20日から21日にかけて、北日本の東海上で低気圧が急速に発達し、北日本で暴風雪による交通障害が生じた。沖縄・奄美では上旬と下旬を中心に高気圧に覆われ、晴れて気温の高い日が多く、月平均気温は1946年の統計開始以来最も高かった。

3月 全国的な高温で、月の後半は、顕著な高温から顕著な低温へと気温の変動が大きく、北日本では寡照となった。

前半は寒気の南下が弱く、沖縄・奄美で一時低温になったほかは、全国的に高温で経過した。後半は、暖かい南風が入り全国的に顕著な高温となったあと、強い寒気が南下し東・西日本を中心に顕著な低温となり、寒暖の変動が大きかった。18日から20日にかけては、北日本や日本海側を中心に顕著な高温となり、富山や仙台など3月としての日最高気温の高い値を更新したところもあった。天気は、北・東日本太平洋側や西日本ではおおむね数日の周期で変わり、北・東日本日本海側と沖縄・奄美では曇りや雨の日が多かった。北日本では、中旬から下旬にかけて低気圧や気圧の谷が次々に通過した影響で寡照となり、北海道では顕著な寡照となった。

4月 北日本から西日本にかけて高温だが気温の変動が大きく、北日本から西日本にかけて多照、沖縄・奄美で低温・寡照となった。

北日本から西日本にかけては、月はじめには3月末からの低温が続いたものの、その後は高温で推移した。下旬には強い寒気が南下してかなりの低温となり、気温の変動が大きかった。沖縄・奄美では、低気圧や前線の影響を受けやすかったことに加え、亜熱帯ジェットの流れにより寒気が入りやすく、曇って気温の低い日が多かった。北日本から西日本にかけては、前半を中心に高気圧に覆われて晴れの日が多く、特に北日本、東日本太平洋側、西日本では顕著な多照となった。

5月 東日本太平洋側を除き全国的に少雨で、北日本と東日本で顕著な高温となった。

上旬は高気圧に覆われて晴れる日が多かった。中旬からは天気は周期的に変わったものの、低気圧は日本海を進むことが多くまた発達することも少なかったことから、東日本太平洋側を除いた全国で月降水量が少なかった。特に、西日本と東日本日本海側では月降水量はかなり少なく、西日本太平洋側は地域平均の統計をとり始めた1946年以降、5月としては最も少ない記録を更新した。なお、上旬と下旬には寒気を伴った低気圧が本州の南岸をゆっくりと進み、太平洋側では天気のぐずついた時期があり、東日本太平洋側での月降水量は多くなった。

一方、沖縄・奄美では、月前半は高気圧に覆われたため、晴れて降水量の少ない状況が続いた。

月後半からは前線の影響により曇りや雨の日が多くなり、沖縄地方と奄美地方では平年より遅い18日頃に梅雨入りした。

北日本から西日本にかけては、中旬の一時期を除き寒気の影響を受けにくく、気温は平年より高く経過した。特に、北日本と東日本の月平均気温はかなり高く、北日本は1946年以降で1970年、1956年と並び5月としては最も高い値となった。一方、沖縄・奄美では、上旬と下旬に寒気が流入したことから月平均気温は低くなった。

6月 北日本で日照時間が少なく、東日本日本海側と西日本で少雨、沖縄・奄美では多雨、北日本から西日本にかけて高温となった。

北日本では、低気圧や気圧の谷の影響を受けることが多かったため、曇りや雨の日が多く、日照時間が少なかった。特に北日本日本海側ではかなり少なく、1946年の統計開始以来3番目に少ない記録となった。また、北日本太平洋側では多雨となった。日本の南海上で太平洋高気圧の勢力が弱かったことから、梅雨前線は本州から離れた南海上に停滞することが多く、東日本日本海側や西日本では日照時間が多く、少雨となった。特に東日本日本海側と西日本太平洋側では顕著な少雨となった。一方、沖縄・奄美では、梅雨前線の影響により曇りや雨の日が多く、多雨となった。気温は、上旬は西日本から沖縄・奄美にかけて、中旬は北日本と沖縄・奄美で、寒気の影響により低温となったが、下旬は本州付近は広く暖かい空気に覆われたため、北日本中心に顕著な高温となった。このため北日本から西日本にかけては、月平均気温が高かった。

7月 北日本から西日本にかけて寡照、北日本で記録的な多雨となった。

梅雨前線が本州付近におおむね停滞し、また、北日本では気圧の谷の影響を受けやすかったため、北日本から西日本にかけては曇りや雨の日が多かった。このため北日本から西日本にかけては降水量が多く、日照時間が少なかった。北日本太平洋側では月降水量が7月の最も多い記録（地域平均の統計を取り始めた1946年以降）を更新し、北日本日本海側と西日本日本海側では月間日照時間が7月としては最も少ない値となった。

また、北日本から西日本にかけては、前線や低気圧および湿った気流の影響により各地で大雨が降った。中でも19日から26日にかけては、日本海から中国・九州北部地方に位置した梅雨前線に向かって暖かく湿った空気が断続的に流れ込んで前線の活動が非常に活発になったため、局地的に1時間100ミリを超える猛烈な雨が降り、16のアメダス観測所で総雨量500ミリ以上を記録する豪雨が中国・九州北部地方で発生した。一方、沖縄・奄美では太平洋高気圧に覆われて晴れる日が多かった。

気温は、北日本では前半は平年を上回り、後半は寒気やオホーツク海高気圧の影響により平年を下回った。東日本から沖縄・奄美にかけては平年を上回る期間が長かったが、月のはじめは西日本と沖縄・奄美で、下旬は東・西日本で、それぞれ寒気や曇雨天の影響により一時的に平年を下回った。

8月 沖縄・奄美では気温が高く、北日本と東日本では気温が低く日照時間が少なかった。

月を通じて太平洋高気圧の本州付近への張り出しが弱かったため、北日本と東日本、西日本日本海側では日照時間が少なかった。気温は、北日本ではほぼ月を通して平年を下回り、また東日本と西日本では上旬と下旬に平年を下回り、月平均気温は北日本と東日本で低く、西日本では平年並となった。一方、沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われたため晴れて気温の高い日が多く、月平均気温はかなり高く月降水量は少なかった。

月の前半は、北日本太平洋側と東日本、西日本では曇りや雨の日が多く、日照時間の少ない状態が続いた。また、台風第8号が沖縄地方に接近し先島諸島で暴風や大雨になった一方、日本の南海上を北上した熱帯低気圧が台風第9号に発達し、非常に湿った気流が日本付近に流れ込んだため、8日から11日にかけては東北地方から九州の所々で大雨となった。特に、西日本の一部では記録的な大雨となって甚大な被害が発生した。月の後半は、天気は数日の周期で変わるようになった。北日本ではやや雲が広がりやすかったものの、東日本と西日本では大陸から進んできた高気圧に覆われて晴れの日が多くなった。月末には台風第11号が関東地方に接近し、東北地方と関東地方の一部では暴風や大雨となった。

9月 全国的に日照時間が多く、記録的な少雨となり、沖縄・奄美で記録的な高温となった。

全国的に天気は数日の周期で変わったが、高気圧に覆われ晴れる日が多く、日照時間が多かった。低気圧の発達はなく、秋雨前線の活動が弱かったため、全国的に降水量が少なかった。東・西日本日本海側では、地域平均の統計を始めた1946年以降9月としては最も降水量が少なかった。また、全国の気象官署のうち19地点で統計開始以来の9月としての少雨の記録を更新した。気温は、北日本から西日本にかけては、上旬と中旬は寒気が南下したため低温となる場所が多かったが、下旬には平年を上回った。一方、沖縄・奄美では、月を通して亜熱帯高気圧に覆われることが多く、顕著な高温が続き、1946年以降、9月としては最も気温が高かった。

10月 気温の変動が大きく、台風の上陸・接近により太平洋側と沖縄・奄美で降水量が多く、沖縄・奄美では日照時間がかなり少なかった。

月を通して、天気はおおむね数日の周期で変わったが、上旬と下旬に2つの台風の影響を受けた。上旬には、台風第18号が南大東島付近から四国の南海上を北東進し、8日には愛知県に上陸、その後本州を縦断した。この影響で、北海道から沖縄地方にかけて暴風や大雨となったほか、千葉県や茨城県では竜巻が発生した（台風が上陸したのは2007年9月以来2年ぶり、10月に上陸したのは2004年以来5年ぶりとなる）。また、下旬にも台風第20号が沖縄に接近、その後、関東の南東海上を進み、沖縄・奄美や東日本太平洋側を中心に大雨となった。これら台風による影響で、月降水量は太平洋側では多くなり、沖縄・奄美ではかなり多くなった。

なお、沖縄・奄美では、台風の接近や前線の影響で平年に比べ曇りや雨の日が多く、月間日照時間はかなり少なかった。

気温は、北日本から西日本にかけては変動が大きかった。月のはじめと中旬後半から下旬にかけては平年を上回った一方、上旬後半から中旬前半にかけては寒気が流れ込んだ影響で全国的に平年を下回った。また、沖縄・奄美では7月以降、平年を上回る状況が続いていたが、中旬にはようやく平年を下回った。

11月 低気圧や前線の影響で全国的に降水量が多く日照時間が少なく、全国的に寒暖の変動が大きかった。

全国的に、月を通して天気はおおむね数日の周期で変わった。上旬には高気圧に覆われて晴天の続いた期間もあったが、中旬以降は次々に通過する低気圧や前線の影響で全国的に曇りや雨の日が多かった。それに伴ってほぼ全国的に月降水量は平年を上回り、月間日照時間は平年を下回った。特に西日本では10～11日に本州付近を通過した低気圧により大雨が降ったことも影響して、地域平均の統計を始めた1946年以降、11月としては月降水量が2番目に多くなり、和歌山・洲本・萩などではこれまでの月降水量の多い記録を更新した。また、気温は変動が大きかった。全国的に、上旬後半から中旬前半にかけてと下旬は平年を上回った一方、月初めと中旬後半には寒気が流れ込んだ影響などで平年を下回った。

12月 中旬後半から下旬はじめにかけて日本海側で大雪となり、寒暖の変動が大きかった。

12月前半はほぼ全国的に気温が高く、日本付近を通過した低気圧の影響で太平洋側を中心に大雨となったが、中旬後半から下旬はじめにかけては強い寒気が南下したため全国的に気温が低く、日本海側の各地で大雪となるなど、寒暖の変動が大きかった。

上旬から中旬前半は数日の周期で天気が変わった。中旬前半には本州付近を進んだ低気圧の影響で、全国的に雨となり太平洋側では大雨となったところがあった。

中旬後半から下旬はじめにかけては、強い寒気が日本付近に南下し冬型の気圧配置となった。このため日本海側では雪が降り続き、東北日本海側と東日本日本海側では、山沿いで1メートルを超える積雪となったのをはじめ平野部でもまとまった積雪を観測するなど、12月としては2005年以来4年ぶりの大雪となり、月降雪量も東日本日本海側では4年ぶりに多くなった。一方、太平洋側では晴れたものの、気温は平年を大幅に下回った。なお、下旬には極端な低温はほぼ解消した。

表1 梅雨入り・梅雨明けの状況（平成21年）

（梅雨入り）

地 域	本年	平年	前年
沖 縄	5月18日頃	5月8日頃	5月22日頃
奄 美	5月18日頃	5月10日頃	5月22日頃
九州南部	6月2日頃	5月29日頃	5月28日頃
九州北部	6月3日頃	6月5日頃	5月28日頃
四 国	6月3日頃	6月4日頃	5月28日頃
中 国	6月3日頃	6月6日頃	5月28日頃
近 畿	6月3日頃	6月6日頃	5月28日頃
東 海	6月3日頃	6月8日頃	5月28日頃
関東甲信	6月3日頃	6月8日頃	5月29日頃
北 陸	6月3日頃	6月10日頃	6月19日頃
東北南部	6月4日頃	6月10日頃	6月22日頃
東北北部	6月4日頃	6月12日頃	6月23日頃

（梅雨明け）

地 域	本年	平年	前年
沖 縄	7月6日頃	6月23日頃	6月17日頃
奄 美	7月5日頃	6月28日頃	7月2日頃
九州南部	7月12日頃	7月13日頃	7月6日頃
九州北部	8月4日頃	7月18日頃	7月6日頃
四 国	7月30日頃	7月17日頃	7月6日頃
中 国	特定しない	7月20日頃	7月6日頃
近 畿	8月3日頃	7月19日頃	7月12日頃
東 海	8月3日頃	7月20日頃	7月12日頃
関東甲信	7月14日頃	7月20日頃	7月19日頃
北 陸	特定しない	7月22日頃	8月6日頃
東北南部	特定しない	7月23日頃	8月6日頃
東北北部	特定しない	7月27日頃	8月5日頃

注：気象庁資料による。

2 被害概況

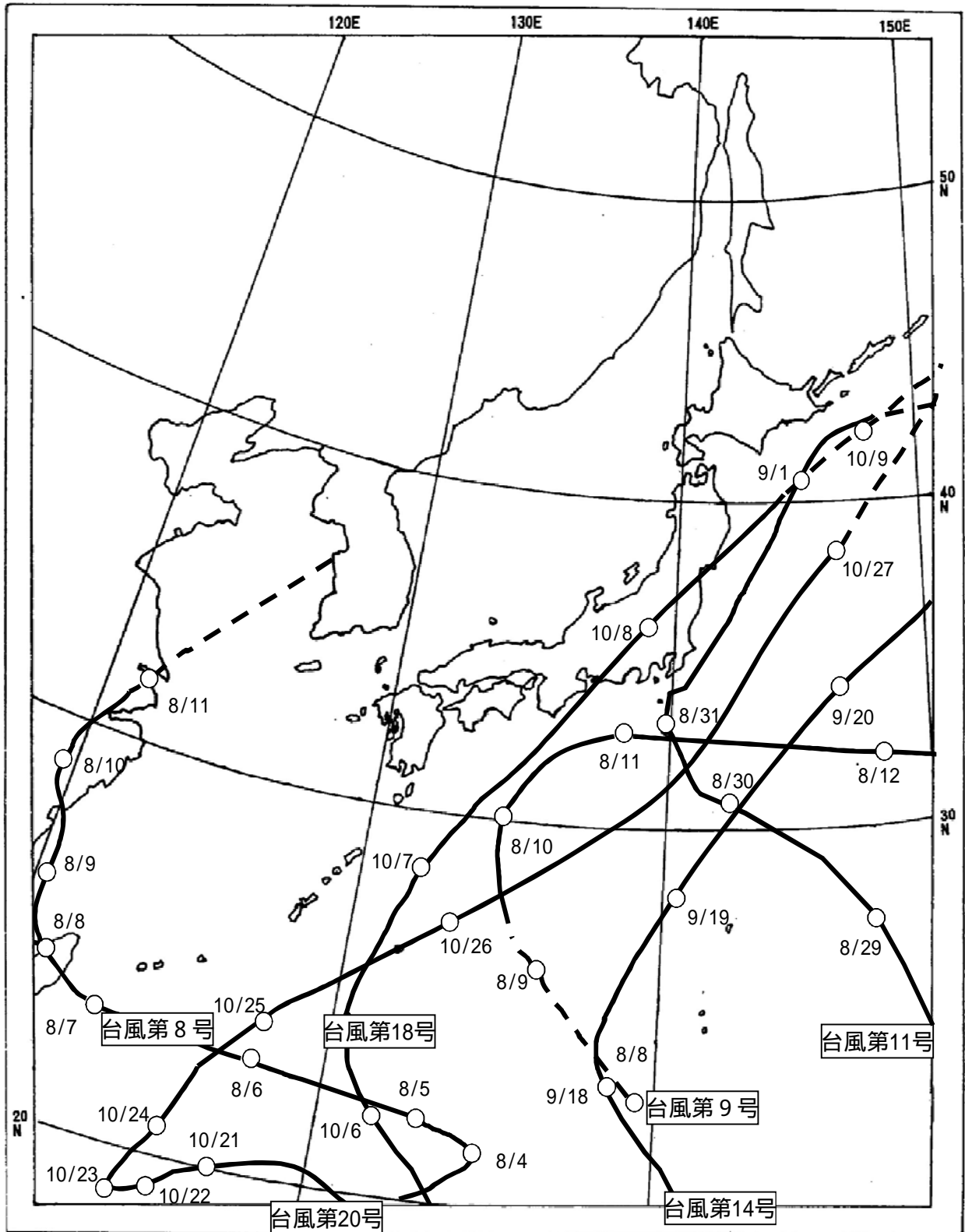
平成21年は、7月以降の全国的な日照不足・低温等により、水稻を中心に1,575億円の農作物被害が発生した。

また、4月中旬から下旬にかけての降霜により16億円、台風第18号（10月6日～9日）により91億円の農作物被害が発生した。

表2 平成21年に発生した主要災害種類別被害概要（総数）

災害種類名	被害発生時期	被害面積 ha	被害見込金額 億円	主な被害農作物	主な被害地域
4月中旬から 下旬の降霜	4月中旬～ 下旬	4 120	16	果樹	青森県、長野県、岩手県
7月以降の日照 不足、低温等	7月以降	2 116 000	1 575	水陸稲	全国（沖縄を除く。）
台風第18号	10月6日～ 9日	49 700	91	野菜、果樹	愛知県、三重県、茨城県

3 平成21年に日本列島に上陸・接近した台風経路図



- 注： 1 経路上の 印は傍らに示した日の午前9時の位置を示す。
 2 経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧・温帯低気圧の期間を示す。
 3 気象庁資料から作成した。